

**今日のトピック 米国債券市場の動向（2017年11月）**  
**長期金利の上昇は緩慢、ハイールド債は底堅い展開へ**

**ポイント1 国債利回りは小幅な低下  
インフレの低位安定が要因**

- 2017年11月28日の米国10年国債利回りは2.33%、前月末比0.05%の小幅低下となりました。
- 米国の景気・雇用は堅調に推移していますが、インフレが落ち着いていることが、金利の上昇を抑制しています。さらに、来年2月に米連邦準備制度理事会（FRB）議長の任期が切れるイエレン氏の後任に、パウエルFRB理事が指名されたことで、現行の「緩やかな利上げ」路線が継続されるとの見方が強まったことも、相場の下支えとなりました。

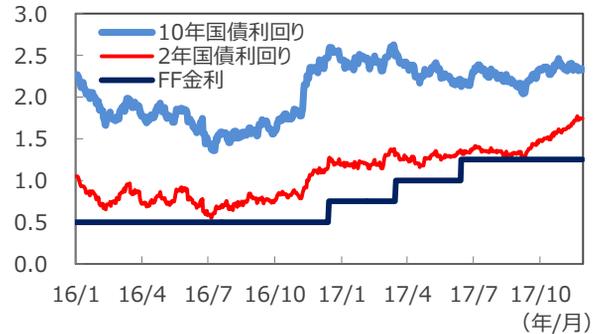
**ポイント2 社債利回り格差は小幅拡大  
社債の発行増等による**

- 一方、社債スプレッド（国債と社債の利回り格差）は、10月末に比べ投資適格社債が0.03%、ハイールド社債が0.18%ほど拡大しました。
- 大型の買収・合併（M&A）に関わる資金調達の拡大に伴い社債の発行が増加したことや、年初からほぼ一貫してスプレッドの縮小が続いてきた反動等によると考えられます。

**今後の展開 ハイールド債は底堅い展開へ**

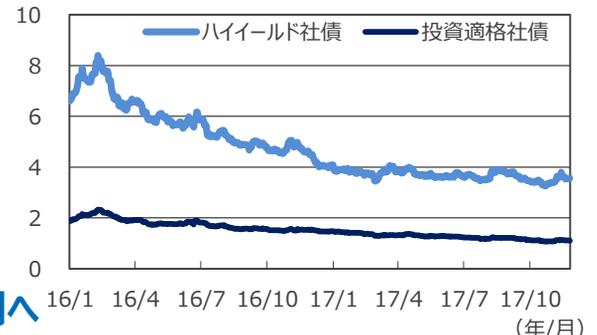
- 良好な景気・雇用を背景に、12月13日、14日開催予定の次回連邦公開市場委員会（FOMC）で、利上げが決定される見通しです。
- その後も利上げは継続されると見られますが、インフレが抑制された環境が続くと予想されるため、利上げの速度は緩慢なものになる見込みです。当面、国債利回りの上昇は抑えられると考えられます。
- 景気拡大、税制改革により、企業業績は堅調を維持する見通しです。これはハイールド社債のスプレッド縮小要因となります。従って、ハイールド社債は底堅い展開が続くと予想されます。

【米国の政策金利と国債利回り】



(注1) データは2016年1月1日～2017年11月28日。  
(注2) FF金利はフェデラルファンド金利で、FRB誘導目標値のレンジ上限を明示しています。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【米国債と社債の利回り格差】



(注1) データは2016年1月1日～2017年11月27日。  
(注2) 対国債利回り格差は、社債利回りと国債利回りの差。Bloombergパークレイズ米国社債指数ベース。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ここもチェック!** 2017年11月28日 最近の指標から見る米国経済（2017年11月）  
2017年11月27日 『FOMC議事要旨』、引き続き物価動向を注視

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。